

【優秀賞】

## 緑が育む美味しい水

仙台市立郡山中学校  
二年 増<sup>ます</sup>川<sup>かわ</sup>智<sup>ち</sup>穂<sup>ほ</sup>

普段何気なく飲んでいる水道水。私は今まで、特に美味しいとも不味いとも感じてこなかった。しかし二年前の夏、家族と一緒に福島県の磐梯山に登った時、水に対する意識が変わった。

あの時に飲んだ水の味が忘れられない。磐梯山に流れる、弘法清水という湧き水の味だ。それは冷たくて澄んでいて、登山で疲れた体にぐんぐんとしみわたるような美味しさだった。水はこんなにも美味しいものだったのか。

なぜ、湧き水はあんなに美味しいのだろうか。そんな疑問を抱き、湧き水の美味しさの理由について調べてみた。そして初めて、水の美味しさには「森林」が深く関係していることを知った。

日本に降る雨の中には、ちりや汚れ、汚染物質などが含まれている。まず、雨が森林に降って地下にしみ込む。そして、土の小さな隙間を通って過されたり、土の中の微生物に汚れを分解されたりすることで、汚染物質が除去されて水が浄化される。さらに、土や岩の中のミネラルがバランスよく溶け出し、まろやかな飲み口の美味しい水になって、湧き水として出てくる、というしくみなのだそう。

私はこのことを知り、心底納得した。うっそうと広がる、深い緑の森林。あの磐梯山の大自然に育まれた弘法清水は、確かに美味しく感じるはずだ、と。弘法清水の美味しさの秘密は、磐梯山が抱く美しい森林にあったのか。

しかし、今、世界各地の森林は危機的な状況に置かれている。一分あたり東京ドーム約二・四個分、一時間あたりの量に直すと東京ドーム約

百四十四個分の木が切り倒され、毎年およそ七百三十万ヘクタールの森林が地球上から消滅している。世界中で伐採される木の本数は毎年約百五十億本、などという話もある。

この先もこのままのペースで木々を伐採し続けていったら、近いうちには地球から全ての森林がなくなってしまうのではないかと。いや、なくなるのは森林だけではないだろう。そこに暮らす多様な生物、きれいな空気、それらも全て失うことになる。そして、水。森林の力で浄化された、清潔で美味しい水も、得られなくなるのではないかと。

また、森林に降る雨のほうにも、人間の活動が影響を及ぼしている。自動車の排気ガスや化学肥料などによって有害物質が発生し、その影響で酸性雨が降るようになっていく。どんなに森林に水質浄化機能があったとしても、後に湧き水となる雨そのものに有害物質がたくさん含まれていけば、除去しきれないものが出てくるかもしれない。

森林や雨は、湧き水の安全や美味しさと深く関係している。弘法清水を含め、日本各地の、そして世界各地の水の美味しさを守るためには、水を育む自然環境をよりよいものにしていくことが重要だと思ふ。

そのために、私たちは何をすべきか。例えば、森にゴミを捨てないこと。木から作る紙の利用を減らすために、再生紙で作られた製品を使うこと。排気ガスを減らして酸性雨を防ぐため、近距離の移動は徒歩にしたり、自転車を使ったりすること。一つ一つの取り組みは小さいが、私たちにできることを少しずつ積み重ねていく、それが環境や水を守る第一歩になるのだと思ふ。

森林に降った雨が地中で浄化され、湧き水として再び地表に出てくるまでには、四百年ほどもかかると言われている。私たちが今、美味しい水を飲めるのは、四百年の間、森林を守ってくれた祖先たちのおかげだろう。では、今私たちが美味しい水を育む緑を守るといふことは、四百年後の地球に生きる子孫たちの水を守ること、ひいては幸せを守るといふことにも繋がっていくのではないだろうか。